

東葛支部会報

第26号

千葉工業同窓会東葛支部

2014年4月1日



日本の名城シリーズ その3

弘前城 (通称 鷹岡城、高岡城)

青森県弘前市にあった城である。江戸時代に建造された天守閣や櫓などが現存し、また城跡は国の史跡に指定されている。江戸時代には津軽氏が居城し弘前藩の藩庁がおかれ、津軽地方の政治経済の中心地となった。城郭は本丸、二の丸、三の丸、四の丸、北の郭、西の郭の6郭から構成された梯郭式平山城である。現在は、堀、石垣、土塁など城郭の全容がほぼ廃城時の原型をとどめ、1棟の天守、3棟の櫓、5棟の櫓門が現存する。天守は日本に12ヶ所残されており(江戸時代以前に建造された天守を有する城郭) その一つで、国の重要文化財に指定されている。司馬遼太郎は「街道をゆく-北のまほろば」で、弘前城を「日本7名城の一つ」と紹介している。

築城1611年 廃城1871年

(ウィキペディアより引用)

会員の皆様におかれましては、益々、ご健勝にて毎日を有意義にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて早速ですが“光陰矢の如し”の諺通り平成26年6月8日(日)には定期総会を兼ね、設立15周年記念式典を開催する運びとなりました。これも偏に本部、他支部、財団法人千工会等々同窓会関係諸氏のご支援はもとより、東葛支部会員皆様のご理解、ご協力、ご尽力の賜と心から感謝申し上げる次第です。

当然の事ながら今後、20周年、30周年と同窓会活動を継続し会員相互の絆をより深めて行く事が必要と考えた時、頭に浮かんだのが人の知恵によって作られ、その蓋然性の確かさのゆえに長年に亘り多くの人によって使われている“諺”の豊かな教訓でした。

私の気持を好きな諺で皆様に表現したいと思います。

- 継続は力なり
- 馬には乗って見よ、人には添うてみよ
- 縁は異なるもの味なもの
- 時は金なり

- 同じ釜の飯を食う
- 言うは易し行ふは難し
- 己を責めて人を責むるな
- 老いてますます壮なるべし
- 案ずるより産むが易し
- 意見と餅はつくほど練れる
- 人生意気に感ず
- 三人寄れば文殊の知恵
- 世間は広いようで狭い
- 知らぬ神より馴染みの鬼
- まさかの時の友こそ、真の友
- 親しきなかにも礼儀あり
- 話し上手は聞き上手
- 百里を行く者は90里を半ばとす
- 旅は道連れ世は情け
- 人はみかけによらぬもの
- 明日は明日の風が吹く
- 遠くの親類より近くの他人
- 急いで事はし損じる
- 仲良き事は美しきかな

皆様のご尽力をお借りして東葛支部の益々の発展を心より願っております。

新年会兼定例会議

平成26年1月22日支部の新年会が、上野広小路にある居酒屋「鍛冶屋文蔵・湯島店」で開催された。毎年の事だが県内会員と県外会員の集合しやすい場所として上野広小路で開催している。寒い日で17時の開始、参加者は12名と少なめであった。

冒頭、支部長から設立から15周年を迎える年にあたるため、従来に増して運営に力を注ぎ会員諸氏ともども頑張ろう、と力強い発声で新



▲参加者集合写真

年会が開始された。

富田常任幹事(44M)より支部のホームページの作成提案があり、既に試作中の内容が公開され6月の定期総会までには完成したいと話があり、参加者全員の絶大な賛同を得た。会は20時頃お開きとなり、今年の活躍を祈念して一本締めで散会した。

近くには湯島天神を初めとして、上野公園や年末になると正月用品の買い物客で賑わう「あめや横町」通称アメ横があるが、以前に比べ食料品を扱う店が少なくなり、宝石商や衣料用品を扱う店が多くなってきている。また、デパート上野松坂屋南館は近く取り壊し新築されるなど、世の中の変化を強く感じる昨今である。

(記 編集委員)

15周年を迎える思い出

土屋 孝夫(34M)

同窓会東葛支部入会の切っ掛けは、同期で既に入会していた坂巻氏(現副支部長)からの勧誘であった。34Mの仲間はメール網が確立していて、お互いの意思が通じていたことが要因の一つでもあった。

神奈川県に住んでいるため、同窓会とは本部から年1回郵送で届く会報のみがつながり特別関心がない状況であったので、千葉県内に9支部の組織があることすら知らなかった。東葛支部は平成11年6月20日に創立の一番新しい支部であり、県外の同窓生を快く受け入れているとのことで、どんな方々と巡り会うことが出来るかと思い入会した。

2003年6月14日に第5回定期総会が八幡会館で開催され、初めて参加して多くの先輩、同期、後輩の方々と会い、その事が後に多くの

人々との輪が広がるスタートとなった。

総会の会場で会う人たちと最初は話すことも限られていたが、段々と時間の経過で在校時の思い出がよみがえり、何のわだかまりもなく話し合うことが出来るようになった。これが年代を越え、千葉工業高校で学んだ共通の意識が生じることなのか。

当時支部の幹部は、立崎支部長(現在顧問)、吉田会計部長(現在支部長)、木間事務局長(現在本部副会長兼支部事務局長)の方々はすぐに覚えられた。

その後支部行事に初めて参加したのは2003年12月10日名門船橋CCでのゴルフである。ゴルフについては今までも色々な仲間とプレーをしていた。腕前は自慢することは出来ない下手であるが、同伴者に迷惑をかけず楽しく一日をプレーすることが好きであった。

翌年には同窓会全体で年2回房総CC大上コースで開催される大会にも参加した。車の運転が出来ないわが身、場所も遠いため支部先輩の計らいで、浦安に住んでいる先輩の車に松戸に住んでいる先輩と3人で御宿の民宿に1泊して会場へ行くことが通例となり、他支部の方々を知る機会を得た。

楽しかったゴルフは2008年11月にふらつきがひどくなり、病院で検査を受けた結果「慢性硬



同窓会東葛支部入会初めての総会(第5回)八幡会館 2003.6.14
左写真 同期の吉田氏 右写真 懇親会会場でカラオケ

▲ 第5回東葛支部定期総会 八幡会館

膜下血腫」と診断され、直ちに頭部の手術を受けることになった。医師からの忠告もあり、楽しみなゴルフは我が人生から永久に削除された。

県外会員として入会した同期の仲間で遠隔地(大阪、浜松、栃木)に住んでいる人は、暫くすると行事等に参加することが出来ないため脱会することになった。また、入会してもメリットがないのでと脱会する人も出てきた。

自分は組織に入って自分出来ることは何かと思えば長続きすると聞いたこともあり、まず参加することが大事だと思い、他支部の行事等にも出来るだけ参加した。ハイキング、竹の子堀、麻雀、サッポロビール工場見学、一泊の研修旅行、他支部の総会等で、他支部の人たちと知り合い輪が広がって来た。

どちらの支部でも共通に若い人たちの入会が少なく会員増に悩んでいる状況である。

いろいろな行事の終わりは懇親会が行われ宴席となるが、自分は現役時代アルコール恐怖症であったが、宴席に参加することが増えてアルコールと徐々に仲良しになってきたことも同窓会に入会したお蔭だと思えるようになった。

そのうちに支部発行の会報にも投稿する機会が増えて、編集委員の一員になった。会報発行の時期が迫ってきても原稿が集まらず、これが悩みの一つであり、不足分を何とか穴埋めすることになる。

2011年6月12日に開催された支部第13回定期総会において、会計部長の大役を仰せつかり、早くも3年目を迎える。

支部15周年に向けて、先輩諸氏が築き成長させてきた支部の一役をまかせて貰っていることを忘れずに、今後とも精一杯頑張っていくと改めてその責任の大きさを感じる。



▲ 第13回定期総会 会場我孫子市「鈴木屋本店」

孫との2人旅

金子 賢二(34M)

その電話は孫たちが夏休みに入った昨年の7月下旬だった。「じいちゃん、僕と旅行してくれないかなア」と突然言ってきた。

電話の相手は4人いる孫の最年長(貴紀19歳)の男の子である。彼は高校卒業後、鉄道関係か旅行関係の職業に就きたいとの希望で、その方面の専門学校を選択し、夏休み中に「自分で企画した家族との旅行」のレポート提出が課題となっていた。「どこに行くのかな? 何泊旅行になるんだ?」と聞くと「関西方面でホテル泊と車中泊を考えているよ」と既に企画は出来て

いるような返事が返って来た。

「車中泊はきつから2泊ともホテルにして欲しい。関西を選ぶなら神戸のおじちゃん(私の弟)の家に1泊お願いしてもいいんだけど…」と応えて再検討を依頼した。「わかった。明日また電話するね」と元気な返事があった後、娘が電話に出た。「実はね、2週間前に私と佳紀(弟)と3人で貴紀の希望もあって出雲と鳥取砂丘へ行って来たばかりなんだ。行きも帰りも夜行を使った旅行で、貴紀が作った分刻みの行程と乗り換えの時には時間がなくて走らされて疲れました。

そして今度は違う家族と行くことが前提で、出来るだけたくさんの方の列車を利用することが企画の条件だと本人が言っていますので、よろしく」と言って電話を切った。

約束通り翌日電話が入った。「1泊目は神戸の家で、2泊目は松山道後温泉にしました。帰りは高松から夜行を使いたかったけど、飛行機で羽田に着く行程にしたよ」と報告して来た。「じゃー、神戸に電話するから行程表をファックスで送るように…」と頼み、早速神戸に電話をいれ経緯を話し、孫と世話になることので了承をもらった。

8月中旬、ファックスが届いた。乗車する列車の名称・発車と到着の時刻・乗換駅の番線・ホテルの電話番号など、細かな情報が一覧表にしてあり、乗換時間が一目で分かるよう丁寧なものでした。さすがに時刻表に詳しい“彼”である。

出発は9月23日、午前8時過ぎに娘と貴紀が車で迎えに来て船橋駅まで送ってもらう。東京駅では発車時刻まで間があるので駅中喫茶に入って、今回の旅行のこと、スケジュールを考えた経緯、旅先での目的など尋ねた。

1日目の神戸着後のことは弟に任せてあった。まず、新幹線で新大阪へ、在来線で三ノ宮へ。弟が出迎えてくれた。

10分ほど歩いて北野の異人館・うろこ館を見



▲北野の異人館・うろこ館

学、その後神戸に移動、神戸港から夕食付クルージングを楽しむ。船上から鳴門大橋に沈む夕日を見ながらのディナーは格別で、またとないだろう思い出となった。



▲神戸港にて筆者と孫



▲夕食付クルージングのコンチェルト号

下船してから市営バスで30分ほどで弟の家に。入浴後、4人で今日の思い出など話し合ったあと就寝。家は鳴門大橋が遠望できる高台にあるので、涼しい夜風が気持ち良かった。

2日目は9時前出発。神戸駅で駅弁を買って西明石へ行き、新幹線に乗り換え岡山へ。再びJRに乗って瀬戸大橋を渡り、予讃線宇多津駅で特急に乗り換え松山へ向かう(14時20分着)。駅前で道後温泉への路面電車(坊ちゃん電車)を尋ね、約30分で道後温泉駅に到着、土産物店が並ぶ通りを歩くこと5分で宿泊先のホテルに着きチェックインした。



貴紀の計画では今日中に松山城を見学すると言う。見学時間が迫っていたので夕食の予定を遅らせていただきホテルの前からタクシーで松山城へ、リフトを使って城内に入る。



▲松山城（現存する天守の一つ）

訪れた時間が遅いこともあり、見学者は疎らで30分ほどで天守閣まで見てきた。城内で伊予かんソフトクリームを食べロープウェーで下山、路面電車で帰路に。有名な道後温泉会館前で記念写真を撮ってホテルへ向かう。



▲道後温泉本館

早速風呂に入ってレストランへ。会席日本料理を堪能して寛いでいるところへ、我々を担当する若い女性が見えて「お孫さんと旅行が出来るなんてうらやましいですね」などと話している時、運転免許取得の話が出て「私は高松まで行って合宿をして取ったばかり…」「孫は今練習中で、まだ仮免を取ったばかりなんだ」などと話

していると、誕生日の話しになり、私が10月?日を伝えると「私と同じです」と言う。意気投合してホテルでの名前を伺ったり(名札を付けていました)、一緒に写真を撮り食事のお礼を言って別れた。(旅行の後、写真を送ると返信と地元松山の祭りで撮ったという仲良し4人が写ったハッピ姿の写真が送られてきた)

3日目は8時過ぎチェックアウト。9時15分発の特急で高松へ向かう。このチケットは前日松山に到着した際、貴紀が自動券売機でスケジュール表を見ながらボタンを押して「じいちゃん、どこの席にしようか?」と言ってモニターを見ていた。明日のチケットを自分で、それも座席を自ら選べることにビックリした(遅れているのかな?)。

暖かく快晴のこの日、高松までの2時間40分は車中居眠りをしていた。高松について栗林公園へのバス発車まで30分あるので、「讃岐うどん」を食べようとなって駅前ビルの看板を探す。やっと見つけて急いで食べ、循環バスに乗った。(栗林公園には15、6年前、家内と自宅-瀬戸大橋-坂出-高松-鳴門大橋-神戸とドライブ旅行した時に見物した記憶がある)

約2時間、写真を撮ったり散策して園内でコロテンを食べ、公園前からリムジンバスで高松空港へ向かう。搭乗手続きまでの1時間は空港見学や土産物買い。



▲栗林公園

手続きをして機内に入って座席に着く。貴紀が作ったスケジュール表を見ると全てが計画通りだった。午後6時羽田到着、リムジンバスで津田沼へ。

事前に電話しておいたので娘が雨の中、車で迎えに来ていた。

こうして孫との3日間の旅は無事終了。帰路、孫の家族4人とこの旅での思い出を語り合いながらの夕食が楽しかった。

32Mクラス会

中村 軍治(32M)

卒業以来57年目となった平成25年12月5日(木)、母校の所在地であった津田沼の地に26名の高貴高麗者(「後期高齢者」のシャレ)が集まった。

宴会場は千葉工大近くのビル11階の中華料理店で、好天に恵まれたこともあって、学生時代の面影が無い程に発展を遂げた、津田沼市街が一望出来る所であった。

前回の集まりから15年となり、そろそろ消えゆく年齢に近づいている為、早くしないと皆居なくなっちゃうよ、と他支部総会で会った幹事に何度か催促して、今回の会が実現しました。

勿論自分も手伝う意思を伝え、開催の運びとなった。

幹事は津田沼在住のI氏、同じく京葉支部のH氏、O氏、東葛支部のE氏と小生の5名、恩師は4名共既に御逝去され、ある会員は、修学旅行の時に、酒を買ってきたのは、お前だろうと散々怒られたが、この席で無実を証明する手立てが無くなった、と嘆く御仁もいた。

小生は司会役をおおせつかり、久しく懇談する機会が少なく残念でしたが、津田沼校歌にある「目ざすは栄えある工業国家」造りを実践してきた誇りを感じさせる各参加者の挨拶であった。

57年振りに参加したI氏は十数種類の資格を取得し、世界を股にかけた(走り抜いた)経験談を話してくれました。

東日本大震災のボランティアを今でも続けている者の発表や、符丁の記された詩吟歌詞を配布し、吟じたりの盛大な同窓クラス会となった。

最後に津田沼校歌を斉唱し、3年後の再開を約束し閉会となった。



▲「わが母校ここにありき」の碑を囲んでの集合写真

別の部屋でコーヒータイムをとり、記念碑「わが母校ここにありき」のある公園に移動し、記念の映像を外房支部のK氏のカメラに収めた。

彼はパソコンとは縁のない環境であったが、写真が好きで、量販電気店のパソコン講座を受講し、小生には苦手な映像の加工も出来るようになり、メールで送信してくれました。



第24回同窓会ハイキング

秋のハイキングは奥多摩の御岳山、当日千葉の方々はバスで高速道路を使用して来る計画。自分は神奈川県在住のため、電車で直接JR青梅線御嶽駅に行き、駅前で落ち合うことにした。千葉からのバスは途中道路の混雑で予定時間より約1時間遅れての到着となった。

御嶽駅は小さい駅のためと天気も良く紅葉の時期と重なったせいか、大勢の人たちで混雑していた。



▲JR青梅線御嶽駅



▲御嶽駅前の多摩川に架かる橋からの溪谷

御嶽駅前の橋の上でバスに乗車して皆さんと会い、ケーブルの滝本駅へと向かう。

参加者は20名（東葛支部から4名）であった。滝本駅から18名はケーブルで御岳山駅へ、元気な2名の方は歩いて登ることになり、山頂の御嶽神社で落ち合うことで各々出発した。



▲ケーブル御岳山駅にて

ケーブル駅から神社までの道もかなりの登り坂があり、周囲の風景をゆっくり見る余裕はなかったが、所々の紅葉は見応えがあった。

山頂の御嶽神社で歩いて登った人たちと会い、少し下った長尾平で各自持参の昼食を取った。

少し休憩後記念の集合写真を撮って下山とした。



▲長尾平で参加者の集合写真

帰りは誰言うことなくケーブルを使用せずに全員歩いて下山となった。全員無事に滝本駅へたどり着きバスに乗車、自分は御嶽駅で下車した。後ほど聞いた話では、沢井の造り酒屋により酒を仕入れて、バスの中は結構な賑わいであったようである。

参加者全員一緒になり一つの目的を達成したことは、何事にもかえることが出来ないことである。

(記 編集委員)

平成25年度 同窓会行事 (本部・他支部を含み編集委員参加)

4月6日 本部主催ハイキング

参加者31名(内、東葛支部7名)



▲墨田区登録文化財「多聞寺三門」前にて

5月18日 千葉市西支部主催麻雀大会

会場「麻雀・大都」、参加者25名



▲参加者の集合写真

5月26日 同窓会本部総会

会場「母校会議室」14:00 開催
主な議題 役員改選 新会長 深山氏就任



7月13日 東葛支部バーベキュー会

会場 野田市清水公園、参加者10名
定例会議を含む



▲清水公園にて

8月17日 千葉市西支部主催

サッポロビール千葉工場見学、参加者34名



▲サッポロビール千葉工場での集合写真

本部主催・各支部主催の行事一端を紹介させていただきました。

この他ゴルフ大会、グランドゴルフ、囲碁将棋同好会、プロ野球観戦、等例年開催されております。

読書 ～つれづれなるままに～ 徒然草(1)

今から730年前、吉田兼好こと卜部兼好は京都左京区の神主卜部氏につながる家系に出生した。70歳まで生きたとされています。

当時としては長命であった。31歳の時に出家して法師になったと伝えられています。48歳の時に徒然草が成立したと言われています。時代としては中韓連合軍が日本を侵略しようとした(元寇の役)ころから、南北朝時代の動乱を経験し、世の中を冷静に見つめて生きた体験から導かれた「無常観」を表し、現在の我々にも教示してくれ、参考になる事が沢山あります。以下原文の短編と現代訳を何回かに分けて記したいと思います。

原文

自己発見の道へ ～つれづれなるままに
つれづれなるままに、日暮しを硯に向かひて、
心にうつりゆく由なしことを、そこはかたなく書き
つければ、あやしうこそもの狂ほしけれ。

訳

今日はこれといった用事もない。
のんびりと独りくつろいで、一日中机に向かつて、
心によぎる気まぐれなことを、なんのあてもなく書き
付けてみる。すると、だんだん現実感覚がなくな
って、なんだか不思議の世界に引き込まれて
いくような気分になる。
人から見れば狂気じみた異常な世界だろうが、
私には、そこでこそ自分と対面できるような気が
してならない。独りだけの自由な時間は、そんな
世界の扉を開いてくれる。

つれづれの語源

つれづれは「つれ」を二つ重ねたものだ。

この「つれ」は動詞「つる」の活用形で、古語「つる」は現代語の「つれる(連れる)」にあたる。そこで、現代語の「つれる」の方から考えると、連続する、連行する、連動する、などの意味が出てくる。これらに共通する意味は、複数のものが一緒にいるということになろう。一緒にいて、しばらくすると、単調で変化がないように思われてくる。退屈だと否定的な考えになる。

「徒然草」の作者兼好はそうした否定的な意味を、逆転させて、積極的な精神活動のきっかけに用いたものでしょう。

— 次号へ —

(参考文献 角川書店 徒然草)



吉田 兼好(1283年頃～1352年以後)

鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて活躍した随筆家、歌人。

本名は卜部兼好(うらべかねよし)、卜部氏は古代の祭祀貴族の一つであり、後に吉田家、平野家に分かれ、兼好は吉田家の系統にあたることから江戸時代以降は「吉田兼好」と通称されるようになった。

「徒然草」は、清少納言の「枕草子」、鴨長明の「方丈記」と合わせて日本三大随筆。

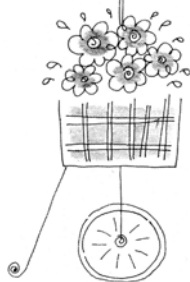
●皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員のなかで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

● ゴルフ	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● ハイキング 釣 り	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● 囲碁・麻雀	高橋 健一	〒270-0157 流山市平和台5-400	TEL.04-7159-9367
● スーパー 紙とんぼ	鎌形 武久	〒270-2241 松戸市松戸新田21-3	TEL.047-364-5084
● 茶 道	富田 博	〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516	TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

平成26年
 3月15日(土)
 定例会議(高柳近隣センター)
 4月16日(水)
 支部会計監査(高柳・かつ美)
 5月21日(水)
 定例会議(高柳近隣センター)
 6月8日(日)
 第16回支部定期総会・15周年
 (我孫子・鈴木屋本店)
 7月19日(土)
 定例会議(高柳近隣センター)

本部関係の予定

平成26年
 4月20日(日) 同窓祭 母校
 4月22日・7月29日・10月28日(火)
 囲碁・将棋同好会 西千葉囲碁センター
 5月13日(火) 常任幹事会 千工会館
 7月・11月 グランドゴルフ
 (高品運動広場)
 9月27日(土) 麻雀同好会 麻雀・大都
 10月21日(火) ゴルフ同好会 真名CC
 11月29日(土) ハイキング同好会
 (藤岡市桜山公園)

編 集 後 記

支部会報26号を皆様方のご協力により予定通り発行することが出来ました。ここに会報第26号をお届けいたします。

今回の会報にはいろいろな記事の投稿がありました。

1. 支部のホームページの立ち上げです。内容につきましては6月8日の定期総会において正式に発表することとし、その内容や運用開始時期とアドレス等、総会決議後にお知らせさせていただきます。予定です。

2. 投稿いただいた「孫と2人旅」筆者は奥様に先立たれ、現在は単身生活ですが、娘さんのお子さんが鉄道関係か旅行関係の職業を目指しているため、その意思に協力した時の旅記録であります。そうは言ってもお孫さんと二人での旅行、中々できることではありません。

また、関係者一同皆様方のほのぼのとした温かい気持ちが伝わってきた内容で、編集委員もうらやましさを感じ、幸せな気持ちをいただきました。

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第27号の原稿募集

東葛支部会報第27号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成27年4月
2. 原稿締切 平成27年2月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第26号

発 行	平成26年4月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事 務 局 長 木間英一
編集責任者	編集委員長 坂巻 実